

～第3号発行にあたり～

お盆の時期が近づいて参りました。皆様、
お変わりございませんでしょうか。

平素は、当寺の護寺運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。「まめ大師尊通信 第3号」を発行させていただきます。

毎年感じますが、年々暑さが厳しくなっている様に思います。以前は本堂内も窓を開け、風を通すと涼しく感じましたが、ここ数年は通る風もぬるく、熱がこもるようになります。

今年も長い夏になりそうです。どうか皆様も、暑さ対策は万全にしてお過ごしてください。そして熱中症には十二分にお気を付け下さい。

また、過去号について、お参りの都合上お渡し出来なかったお家がございましたので、ホームページ上 (<http://mamedaishison.com/>) にてご覧いただけます。良ければご覧ください。

この夏も頑張って乗り切りましょう。

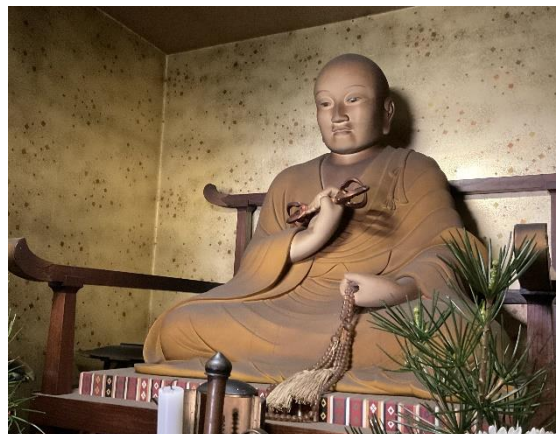
藤田 光雅

<まめ大師尊 メールアドレス>
mamedaishison@gmail.com

<まめ大師尊 公式ラインアカウント>
Line ID@977sxhkj



※メール、ライン共にすぐにお返事できない場合がございますので、緊急を要することやすぐにお返事が必要な場合は、お電話にてお願い致します



当寺弘法大師尊像

～弘法大師・お大師様の足跡～

先号には、当寺のお大師様のお姿について触れさせていただきました。今号では、お大師様の足跡について少し勉強したいと思います。

お大師様（幼名 真魚(まお)）は、宝亀5年（774年）6月15日に、現在の香川県善通寺市にてお生まれになられます。その当時より、読み書きののみ込みが早く、神童といわれておられたようです。

その後、15歳の時に母方の叔父をたより、都に移ります。そして大学に入るために、叔父の教えをうけ勉強をし、18歳でついに大学に入学します。そして大学でも猛勉強は続いたと伝わります。

その大学で勉学に励んでおられる頃に「ひとりの沙門」に出会います。（沙門とはお坊さんの事で、どなたを示すかは、はっきりしません）その沙門に「虚空蔵求聞持法」という、すべての経文の文句を暗記、理解できるようになるといわれる、記憶力が増す修行を教わります。この頃より、密教に対して足を踏み入れられるようになります。

その後、修行の場所として四国を選ばれ、各地にて修行され、そして室戸岬にて先程の「虚空蔵求聞持法」の修行を行います。この修行は虚空蔵菩薩の御真言を100万遍唱えるというものであり、100日はかかるといわれております。その修行中に非常に不思議な体験をなさいます。ある日の明け方の修行中に、空にある「明星」（金星）がどんどん近づいてきて、なんと、お大師様の口の中に飛び込んできます。このことはお大師様の書かれた書物である『三教指帰』（さんごうしいき）にも「明星来影す」と書かれております。

～出家、そして中国へ～

またこの室戸岬での風景より名を「空海」と決めたと伝わりますが定かではない様です。

お大師様が書かれた『聾瞽指帰(ろうこしいき)』を後に手直しされた著書が先程の『三教指帰』で、『聾瞽指帰』は延暦16年(797年)お大師様が満24歳の年に書かれたとされております。

また、この頃の僧侶には、朝廷などより認められた「官僧(官渡僧)」と、認められていない「私度僧」に分けられており、お大師様は当時はまだ私度僧でした。

この後、お大師様が歴史的に登場されるのは、延暦23年(804年)であり、先程の延暦16年から、「空白の7年間」があります。

この7年間は歴史上の記録には登場されませんが、全国各地を回り、修行をなさっておられた様です。そのため、日本国中でお大師様にまつわる言伝えがあるのだと考えられております。

先程の延暦23年には、お大師様は東大寺の戒壇院にて受戒し、正式な僧侶となります。そして同年、遣唐使船に乗り、最澄、橘逸勢らと共に当時の先進国であり、仏教の中心でもあった中国(唐)に「密教を学ぶため」に渡られます。この唐に渡ることを入唐(にっとう)といいます。

当時、入唐は命がけでした。航海術はまだ未熟で、嵐に遭遇したり、漂流したりと、命を落としてしまうことも数多くありました。お大師様の乗られた船は仏様の加護もあり、何とか唐には到着されますが、目的地である唐の都「長安」よりもはるか南に漂着されます。この漂着先でも困難が続きますが、お大師様の特異な才能をもって対処なさい、そして日本を出発して約5か月半後の延暦23年12月末に長安に到着なさいます。 →次回へ続く

～お盆施餓鬼法要のご案内～

<日時> 令和7年8月15日(金)

14時より法要開始

(15時30分頃終了予定)



毎年、8月15日に本堂にてお勤めさせていただいております、「お盆施餓鬼法要」のご案内です。

この法要では、**ご先祖様**や普段なかなか供養されない**水子さま**、また**ペット(愛玩動物)**などを供養させていただく法要になります。

詳細は同封のご案内をご覧ください、**供養させていただく方のご戒名(俗名でも大丈夫です)**、もしくは**先祖代々、水子さん、ペットのお名前等をお知らせいただきお申込み下さい**。お申込みは同封の振込用紙、もしくは電話、メール、ライン、ファックスいずれでも構いません。なお、当日のお申込みも承りますが、法要開始までに受付にお申し出ください。

また、暑い時期になりますので、お参りの際にはぜひ楽な格好でお参りください。ご不明な点はお気軽にお尋ねください。

～最後に～

今号もお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

今回は自分の勉強も兼ねて、お大師様の一代記を書かせていただきました。尚、参考にさせていただいている著書は『図解雑学 空海』(ナツメ社)と『空海と真言宗』(学研)です。

皆々様に少しでもお祖師様についてご興味を持っていただけると幸いです。

末筆になりましたが、どうぞご自愛ください。 合掌

高野山真言宗

まめ大師尊 弘法大師堂

〒522-0066

彦根市栄町2丁目5-29

TEL 0749-22-5765

FAX 0749-27-8844

